



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一六四号）

寒露

十月八日

遷宮の秋

この秋、伊勢神宮では第六十二回式年遷宮のクライマックスである遷御が行われています。

遷御とは、現在のお宮から新しいお宮へ御神体を遷す厳かな儀式のことで、御神体がお宮からお出ましになるのは夜八時になります。

まず八時前にカケコー、カケコー、カケコーという鶏をまねた声が響きます。

この声は鶏鳴所役といって神宮の神職のなかから選ばれた人が担当します。

瑞垣御門の下で、東に向かって、最初のカケコーは低く、徐々に声を高くしていき、三声目は大きく、長く伸ばすのだそうです。日本神話の天岩戸開き

の際には、長鳴き鳥が鳴きますが、まさに時を告げるのは鶏なのです。神話さながらの儀式です。また内宮はカケコーと唱えますが、外宮の鶏鳴はカケ

ロー、そして北に向かって三声を発するのが恒例です。遷宮諸祭では内宮と

外宮の所作が少し異なることがあります。これは、内宮は荒木田神主が、外宮は度会神主が代々お祭りを執り行っていた名残です。

そして鶏鳴の声を聞き届けて、今度は皇室から遣わされた勅使がお宮の階の前に進んで「出御」と三度申し上げます。その声を合図に、神職らに奉持された御神体の御列はゆっくりと進み始めるのです。

このときは、わずかに神域を照らしていた庭りょうの火は濡れた覆いで隠され、浄間という清らかな闇に包まれます。その中を神宮楽師による道楽の調べと、「おおー」という警蹕の音が響きわたるのです。こうした厳かな神遷りの儀式が十月二日内宮、五日の外宮に続いて、第一の別宮である荒祭宮が十日、多賀宮十三日に行われます。

伊勢は二十年に一度の特別な秋を迎えています。

文 千種清美

